

平成 22 年度 第 1 回認知症地域支援体制構築等推進会議経過報告（御浜町）

● 2 年目を迎えて

昨年度よりモデル事業の指定を受けて、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を基本方針として事業を展開してきたところである。取り組みにあたっては、課題を大きく 4 つに分類して、それぞれの課題に対して様々な事業を行なった。具体的な内容等については別紙報告書に記したとおりである。

基本的なスタンスとしては、2 年目にあたる今年度においても同様であるが、昨年度実施した事業等がモデル事業の時だけで終わる一時的なものではなく、継続した取り組みとして定着していけるような事業を展開していくこととする。

● 具体的な取り組みについて

1 事業全般に関する取り組み

◆ 全体方針をプロジェクトチームで協議

健康福祉課（課長、高齢者担当職員）、地域包括支援センター（主任ケアマネ、社会福祉士）、社会福祉協議会（事務局長代理、ボランティアコーディネーター）6 名で組織。

◆ コーディネーターの設置

コーディネーターは、地域包括支援センターの社会福祉士が兼務することとし、事業の事務局としても主担当として設置し、ボランティア等への働きかけを中心とした担当者として、ボランティアセンターのコーディネーターに当事業のコーディネーターを一部になっていた形をとっている。

◆ 先進地視察

静岡県富士宮市へ紀宝町と一緒に先進地視察を行なう。

富士宮市は平成 20 年度にモデル事業が終了し、平成 21 年度以降はモデル地域の指定を受けていないが、継続して認知症に関する取り組みを先進的に取り組んでいる地域であり、本人支援ということで若年性認知症の方の講演活動等の支援も行なっているなど、様々な取り組みについて話を聞くことを目的に視察。

2 地域住民の認知症に対する理解に向けて

◆ 認知症サポーター養成講座の実施

平成 21 年度から認知症サポーター養成講座の取り組みを行っているところであるが、3 月末の時点で県との協働事業も含めると、約 700 名のサポーターが誕生しており、少しずつ認知症を理解している住民が増えてきているのではないかと感じている。さらに地域の充実を図るため、今年度も引き続き講座を実施していくこととし、講師役であるキャラバン・メイト、特に行政・地域包括支援センター職員の質の向上を図るため、東紀州管内の市町と協働でキャラバン・メイトスキルアップ研修の実施について検討しているところである。

現在開催予定の養成講座

- ・ 町内3ヶ所ある中学生を対象に、学校別の実施予定
- ・ 町内の消防分署職員を対象に実施予定
- ・ 神志山地区（徘徊模擬訓練実施予定地区）の住民を対象に実施予定

◆ 情報誌の発行

昨年度より年4回程度、地域包括支援センターからの包括だより「みろバ」を発行。包括の活動や認知症に関する情報等を、サポーター養成講座実施の際のアンケートの中に、情報提供の希望で登録していただいた方を中心に送付。今年度においても継続実施。

◆ 講演会の開催

認知症の人本人やその家族の気持ちについて知っていただき、他人ごとではない自分たちのこととして捉えていただけるような内容をテーマに講演会を開催。

（講師、開催時期等については未定）

3 専門職の「認知症」「認知症ケア」に関する専門知識の習得、理解に向けて

◆ 認知症ケースの事例検討会を開催

地域包括支援センターの事業の一環で、昨年度も実施しているが、熊野包括、紀宝包括と共催で、居宅のケアマネジャーを対象に参加希望者を募り、認知症ケースの事例検討会を実施。（7月～10月の間に2回実施）

◆ 事業所別研修の開催

介護保険サービス提供事業所を対象とした事例検討会であるが、社会福祉協議会と老人保健施設の2ヶ所で行なうこととしている。それぞれの事業所に出向いての検討会としている。

事業所	内容
社会福祉協議会	<p>社会福祉協議会のケアマネが担当するケースで、訪問介護、通所介護を利用している認知症の方の事例検討を行うこととした。進め方としては、訪問、通所それぞれの事業ごとに2回の事例検討を行うこととし、それぞれに居宅ケアマネと包括職員が参加することとする。</p> <p>訪問、通所ともに、1回目に個別援助計画を基に事例検討を行い、約3ヵ月後に2回目を行い、その関わり方を振り返るという方法で、ケアマネにはどちらも検討には加わず、そこでの検討の様子をみてもらうこととした。</p> <p>訪問、通所それぞれ2回ずつ終わった後に、ケアマネと包括職員でケアプランと、それまでの検討会の内容を基にケアマネとしての関わり方、事業所との担当者会議のあり方等について検討を行うということで、計5回の事例検討を行うこととしている。</p>

老人保健施設	認知症の利用者で、現在入所しているケースについて事例検討を行うこととした。進め方としては、1回目に事例検討を行い、そこで決めた関わり方を約3ヶ月継続していただき、2回目の検討会で関わり方の検証や本人の気持ちについて考えるという方法で行なうこととしている。
--------	---

◆ 医療機関との連携について

三重大学で実施することとしている寄附講座（認知症医療学講座）の関係もあり、6月より紀南病院に月1回の割合で神経内科「もの忘れ外来」が開設されることとなった。月1回の診療ということもあり、有効的に活用できるような関係づくりが必要であり、医療、福祉が連携強化できるような調整を行っているところである。

（出来れば連携システムのようなものを確立できればと考えている）

4 地域の見守り体制の強化を目指して

◆ 地域資源マップの作成

地域包括ケア会議等での意見を踏まえながら、町内全域を対象とした地域資源マップを作成することとしている。

◆ 地域の見守りボランティアの促進

昨年度からの取り組みの中で見守りシステムを構築し、見守りボランティアとして民生委員を核に、高齢者見守りサポーターや配食ボランティアを中心に、認知症等で地域との関わりが少なくなってきた高齢者宅を、配食も含めて月2回程度訪問していただくようにしている。調整等については、ボランティアセンターを中心に行っていただき、個別の相談対応については地域包括支援センターに連絡が入り、関係機関と連携した対応を行なうこととしている。

◆ 徘徊模擬訓練の実施

昨年度に構築した徘徊SOSネットワークシステムを基に訓練を行なうことで、実用的なシステムとして活用できる様、模擬訓練を行なうこととしている。昨年は尾呂志地区において訓練を実施しているので、今年度においては神志山地区での訓練を予定している。

5 家族支援の体制について

◆ 認知症介護者のつどい・交流会の開催

昨年度より「認知症家族の会 三重県支部」と共催で、年4回つどい・交流会を開催。

6月8日には、つどい・交流会の周知も兼ねて民生委員やボランティア等を対象に、医療機関との連携や介護体験、地域の見守り支援といった内容でのミニ講演会を開催しました。

◆ 事業所とのタイアップした家族会支援

同じ事業所を利用しているという仲間意識もあり、参加しやすいのではないかとということで、通所系の事業所と連携した介護者のつどい・交流会を検討している。